

## 和水町が元気になったバイ 九州プロレスが興行

和水町体育館で、6月23日、九州プロレスの無料興行「和水町ば元気になるバイ!!」が開かれました。九州プロレスが、年の初めに震度6弱の地震があった本町を元気にしようと思ったもの。めんたい☆キッド選手や玄海選手、阿蘇山選手ら所属選手8人が、約400人の観客の前で、熱戦を繰り広げました。

第2試合で、がばいじいちゃん選手が登場すると、一斉に子どもたちに取り囲まれ、リングに担ぎ上げられる場面も。野崎選手との対戦が始まると、「じいちゃん」と観客から声援が送られ、手拍子が湧き起こり、会場は一気に盛り上がりました。

試合が始まる前に、ちびっ子プロレス教室が行われ、子どもたちは、ばってん×ぶらぶら選手と楽しく体を動かしていました。



ちびっ子プロレス教室の一幕



①佐々木選手×キャシャーン選手の戦い  
②がばいじいちゃん選手が技を披露  
③阿蘇山選手、佐々木選手、玄海選手と町長でポーズ



## 県内最年少で防災士資格を取得 若い世代に防災の大切さを



永田将也さん(左)と柳原拓巳さん(右)

柳原拓巳さん(菊水中2年)と永田将也さん(玉名附属中2年)が、防災士試験に合格し、県内最年少の防災士となりました。

防災士は、NPO法人日本防災士機構が認証している民間資格です。2人は、県主催の「第15回火の国ぼうさい塾」で防災活動のあり方などを学び、2月に行われた資格取得試験に合格しました。

柳原さんの母志保さんは、防災士として県内外で防災啓発活動をしていて、その姿を見て柳原さんも防災士になろうと決意、友人の永田さんを誘って一緒に頑張りました。

「地域の危険箇所を同じ地区の子どもたちに伝えたい」と永田さん。

「普段から片付けや家事の手伝いをするなど、子どもでもできる備えについて広めていきたい」と柳原さん。

2人は、13日になごみ乃湯で開かれる防災講座(18ページ)でアシスタントデビューします。

## 廣田彩花さんが里帰り 母校などを訪問

6月20日、バドミントン女子ダブルス世界ランキング2位の廣田彩花さんが、母校の菊水西小学校、菊水中学校と和水町役場を訪問しました。

廣田さんの帰郷は、今年の1月以来2回目。オーストラリアオープンの優勝報告のためリフレッシュを兼ねて帰郷しました。

「母校は懐かしかったです。児童生徒からたくさんのエールをもらいました」と話した廣田さん。「これからインドネシアオープン、ジャポンオープンなど、東京オリンピック出場の2枠を賭けた重要な大会が続くので、一つ一つの大会を大事にして、オリンピックに出場できるように頑張ります。一番の目標は、東京オリンピックで金メダルを取って、和水町の皆さんに恩返しをすることです」と抱負を述べました。



感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいと話す廣田さん



菊水西小学校の児童らと

## 優しさと思いやりの心を 「人権の花」伝達式

「人権の花」伝達式が6月20日に三加和小学校で開かれ、全校児童158人が、生命の尊さと思いやりの心を学びました。

この取り組みは、くまもと県北人権啓発活動地域ネットワーク協議会が行っているもの。児童一人一人が花を育てることで生命の大切さを学んでほしいとマーゴールドとサルビアの苗が用意され、この日児童代表の12人が花の苗をプランターに植えました。

吉永希和さん(6年)が「今日植えた花を枯らさないように水やりを頑張っていきたいと思います。花を育て、種をとることを通して、生命を大切にしたい優しい子になりたいと思います」と決意表明をした後、児童全員で「豊かな心に美しい花を咲かせよう」とスローガンを唱和しました。

同小では、今回児童が植えた花の種を秋に収穫し、風船につけて飛ばす催しを計画しています。



①花の苗を植える児童代表  
②決意表明をする吉永希和さん  
③児童全員でスローガンを唱和



伝達式の最後にみんなで記念撮影

